

## アカデミックガウンの導入についての具体的なご提案

【ご意見・ご要望】(投稿日:2026年3月21日)

京都大学卒業式でのアカデミックガウンの導入について、ご相談させていただければと思います。本件については、2024年、2025年にも同様のご質問が寄せられていたかと思いますが、京都大学卒業式でのアカデミックガウンの導入については未だ実施されておらず、卒業式でのフォーマルな服装の着用という課題が解決していませんので、私からも改めてご相談させていただければと思います。過年度のご質問にも記載されている通り、アカデミックガウンの導入は世界的に見て非常に一般的かつ象徴的であり、東大などの他大学でも導入されていることなど、アカデミックガウンの必要性については、私も全く同意見であります。また、現状では、女子は袴、男子はスーツといった慣習的な服装のイメージが根強くありますが、卒業式は本来、個々の学生の学業上の達成を称える場であり、性別に依拠した服装規範に左右されるべきではないとも考えます。その意味でも、アカデミックガウンは、ジェンダーの観点から見ても、より中立的で大学らしい選択肢になり得るのではないのでしょうか。過年度のご質問を加味しても、アカデミックガウンを必要としている学生が一定数いるにもかかわらず、そうした人達の希望が未だ解決していないというのは大きな問題かと思えます。特に、卒業式では、学生代表として、学長と同じ壇上で卒業証書を受け取る代表の学生もおります。こうした学生にとって、入学式と同じようなスーツで登壇する姿は、卒業式らしさを失い、せっかくの象徴的な儀式としての価値を損なうものではないかと考えます。昨年度のご質問では、予算上の制約から難しいという旨をご回答いただいたかと思えます。つきましては、他大学でのアカデミックガウンの運用を調べますところ、多くのケースでは、大学生協にて、公式アカデミックガウンの貸出が有償で行われているものと認識しています。生協にて営利活動としてアカデミックガウンの貸出・販売を行う以上は、大学の直接的な財政負担を抑えつつ導入を検討する余地もあるのではないかと考えております。京都大学においても、是非ともこの機会に、大学生協等の関係機関と連携し、アカデミックガウン導入の実現に向けて協議を進めていただけないでしょうか。私自身も学生の立場から生協に相談することを検討しておりますが、大学側からご相談いただく方が、制度化に向けてはより自然で実効的ではないかと考えております。卒業式が、入学式とは異なり、これまでの学業を公的に認め、次なるキャリアへと羽ばたく貴重な場所であることをご認識いただき、ぜひ前向きにご検討賜れますと幸いです。何卒よろしくご意見申し上げます。

【回答】(回答日:2026年5月18日)

(回答部署:学務部学務課)

ご提言をいただきありがとうございます。

アカデミックガウンについて、既に導入している他の大学の事例も踏まえて検討いたしました。

まず、本学の学位授与にふさわしい仕様でアカデミックガウンを製作する場合、品質を維持しつつ過度な費用負担を抑えるためには大量発注が必要となります。

このような貸出事業を成立させるには、利用率の確保のために大学が着用を強く推奨せざるをえなくなりますが、本学としては、卒業生や修了生に服装を半ば強制することは適切ではないと考えております。

また、販売事業とする場合も、価格抑制のための大量発注は、売れ残りの在庫リスクや保管コストを事業者に強いることとなります。加えて、学位ストールの例と同じく登壇者や各学部・研究科の卒業(修了)生代表者の着用分を大学が一定数を購入・保管する必要が生じるため、数百万円に及ぶ導入コストおよび維持管理費が課題となります。本学では、近年の式典開催経費の高騰を受けて卒業式と学位授与式を同日開催とするなど経費圧縮に努めてきたところであり、更なる費用負担は現状では困難です。

以上、総合的に判断し、現時点ではアカデミックガウンの貸出・販売は困難ですが、学生の皆様からご提案があった事実も踏まえ、今後の式典のあり方を検討する上で参考とさせていただきます。